

周縁からはじまる

作家の言葉

〈0927535225〉この数字はNTT西日本との契約によって、私とこの場所に割り当てられた電話番号である。ただし、施工業者による現地調査が行われた12月3日の現時点では、開通工事の日程が12月26日で組まれているため、〈0927535225〉に関わる出来事のまともは未だ宙に浮いている状態だ。このまま予定通り進めば、およそ半年間におよぶ私のレジデンスプログラムは、作品との約束をはたすという意味においていえば、12月25日をもってはじまりを迎えることなく終えることになる。約束が保留されている今は、まだ良い状態なのかもしれない。

...

2ヶ月ほど前、東京都小平市の照恩寺でひらかれていた高柳恵里さんの展覧会情報を目にした。展示自体は見えていないのだが、展覧会につけられたタイトルがとても印象的で、それは(作品を見ていないにも関わらず)作品のダイレクトな輪郭をかたち作っていた。《状況の現実》というその言葉は、ぱっと見ると「状況」が「現実」をこえて物事の前後関係が反転しているような印象を受けるが、よくよく考えてみると、確かに私の目の前の「状況」は、なにをもって「現実」たり得ているのだろうということに気づかされる。現実が予め与えられているわけではない。肉付けされたものが「現実」なのだ。言い換えれば、「現実」の「状況」にリアリティが宿るのではなく、ある「状況」を「現実」として捉えるアビリティにこそリアリティがあるといえる。

...

家族とともに寝起きし仕事に行く毎日を送る生活者の私からすると、自身の芸術活動は裏アカウントのようなものである。そもそも芸術が生活の足しになっていないところか、芸術をしたいがために生活のなかからさまざまなコストをやりくりしている、つまり多くのアマチュアの一人だ。妻の努力が僕を彫刻家にしてくれていると言っても言い過ぎではないと思う。私の彫刻とはそういうもの(モデルニテ)だ。

...

今日までの滞在制作において、間違いなくリアリティの源泉であり、自身の志向性や思考を動かし、またいろいろな仕方でまわりを巻き込み、複雑で乱暴な流れを生み出したのは、ここに固定電話の回線を引くという「約束(=制作)」だった。この場所の所有に関わるいくつものレイヤーを電話線が貫通し、所在が不分明な空閑地を電話番号の向こう側に開くことが〈0927535225〉という今回の展示であり、今でも向こう側へ行きたいと願っている。

...

流れの中で通り過ぎていく出来事の間を取り出してよくよく見てみる。世界のより大きな、さらに小さな状況と一緒にあること。「状況」は書き出せばキリがないほどのことと共に出て、同じ様に「約束(=つくること)」のかたちにも思いもよらない方法がきっとあること。まだ「つくること」をつくる道を探している。〈スカスカのオブジェ〉になれば、きっと興味を失ってしまうだろうから。

上村 卓大

《「〈0927535225〉もしくは〈スカスカのオブジェ〉」》

ミクストメディア / サイズ可変 / 2024年

1. 《exterior #3》
HMDタイプ横型分電盤WHM付・配線・電気 / 32cm × 500cm × 115cm (分電盤本体)
2. 《光》
蛍光灯・電気 / サイズ可変 / 2024年
3. 《Portal / unknown》
NTTFAX T-360・電話回線・電気 / 24.9cm × 44.8 cm × 39.4 cm (電話機本体)
4. 《[ex]change》
両替機 (BOSTEC BX-102、架台)・100円硬貨・電気 / 135cm × 46cm × 45cm
5. 《インバーター》
洗濯乾燥機 (Miele WTH120WPM)・水・電気 / 84.6cm × 59.6cm × 63.7cm (本体)
6. 《KMC-001 (mind set)》
ポリエステル樹脂・ファイバーグラス・塗料・ステンレス・ゴム / 96cm × 236cm × 59cm